留学生センターワークショップ

「長野県遠山郷「霜月祭」の舞と笛を学ぼう」

浮　葉　正　親

［主　催］名古屋大学留学生センター
［共　催］NPO 法人「大ナゴヤ大学」
（Dai-Nagoya University Network）
［講　師］下栗拾五楽坊の皆さん（５名）
［日　時］平成23年11月23日（水）　13：30～16：30
（開場13：15）
［場　所］名古屋大学留学生センター２F　207講義室

平成23年11月23日（水・祝），留学生センター２階207講義室で，ワークショップ＜長野県遠山郷「霜月祭」の舞と笛を学ぼう＞を開催し，長野県飯田市上村下栗（「下栗の里」）から５人の講師を迎え，国の重要無形文化財に指定されている「霜月祭」の舞と笛を留学生と市民に教えていただいた。

下栗は，南アルプスの3,000m級の山々を間近に望む急斜面に家や畑が点在する景観から「天空の里」とも呼ばれている。過疎と高齢化が進む典型的な限界集落であるが，若者たちが「下栗拾五楽坊」（グループ名は下栗の氏神「拾五社明神」に由来）を結成し，里の魅力を再発見しつつそれを受け継いでいこうとしている。この下栗の里と２年前から交流を始めたのが名古屋を拠点に活動する NPO 法人「大ナゴヤ大学」である。今回のワークショップは「大ナゴヤ大学」と連携して市民からも受講者を募集し，留学生と一緒に日本の伝統文化を学ぶプログラムを組んだ。

参加者は，留学生が10名（中国８名，韓国２名），市民が11名，大ナゴヤ大学ボランティアスタッフが７名，下栗拾五楽坊から講師が５名，飯田市職員が１名，計34名であった。ワークショップの前半は，下栗の里で長年民俗調査を行っている，当センターの浮葉正親准教授が下栗の霜月祭の由来や全体の流れを DVD を使いながら紹介した。休憩をはさんで後半は，舞と笛の二つにグループを分け，いよいよ講習を開始した。

舞は楽坊の代表・野牧孝浩さんと高校２年生の胡桃沢拓巳さんが，笛の指導は拓巳さんの父親で下栗で笛の名手として知られる胡桃沢国夫さんが指導してくださった。霜月祭にはさまざまな舞があるが，今回教えてもらったのが「襷（たすき）の舞」である。この舞はトンビが空高く優雅に舞う姿をイメージしており，扇子と鈴を両手に持って舞う。ゆっくりとした動作であるが，意外に筋肉を使い，一回りすると息が上がる。一方，笛はまず音を出すのに一苦労する。口をすぼめて息を吐き出すように指導されるが，なかなか音が出ない。30分ほど練習したところで，今度はグループを交代した。１時間後，舞と笛を合わせて全体で祭の雰囲気を味わった。最後に全員で記念撮影，笑顔でワークショップを終えた。

名古屋市港防災センターでの研修